



追加型投信 / 内外 / 株式

先進国好配当株式ファンド (3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり 決算・分配金のお知らせ

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2018年5月7日

・当レポートではファンドの名称について、「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)」を「(3ヵ月決算型)」、「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり」を「(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり」という略称で記載する場合があります。また、これらを総称して「当ファンド」、各々を「各ファンド」という場合があります。

平素は「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは2018年5月7日に、「(3ヵ月決算型)」は第9期(2018年2月8日～2018年5月7日)、「(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり」は第5期(同上)の決算を迎え、当期の分配金を「(3ヵ月決算型)」は40円(1万口当たり、税引前)、「(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり」は5円(1万口当たり、税引前)としましたことをご報告いたします。

今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

分配金と基準価額(2018年5月7日)

(3ヵ月決算型)

(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

分配金
(1万口当たり、税引前) **40円**

分配金
(1万口当たり、税引前) **5円**

基準価額
(1万口当たり、分配落ち後) **9,866円**

基準価額
(1万口当たり、分配落ち後) **10,166円**

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第5期 (2017年5月)	第6期 (2017年8月)	第7期 (2017年11月)
145円	745円	745円
第8期 (2018年2月)	第9期 (2018年5月)	設定来累計
10円	40円	3,185円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第1期 (2017年5月)	第2期 (2017年8月)	第3期 (2017年11月)
5円	305円	505円
第4期 (2018年2月)	第5期 (2018年5月)	設定来累計
5円	5円	825円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

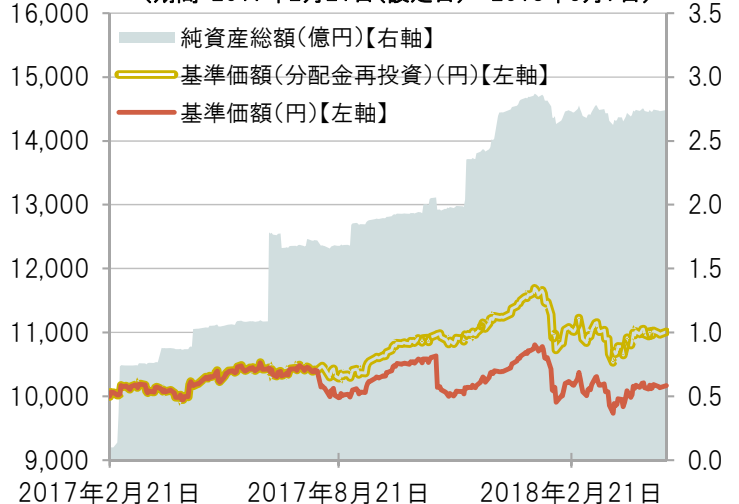
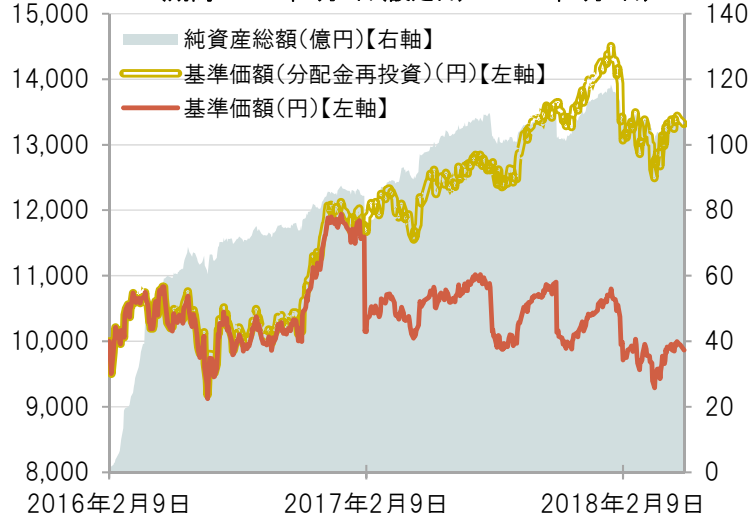
基準価額の推移

(3ヵ月決算型)

(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

(期間: 2016年2月9日(設定日)～2018年5月7日)

(期間: 2017年2月21日(設定日)～2018年5月7日)



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

先進国好配当株式ファンド (3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

当期の市場環境と当ファンドの運用状況について

【市場環境】

■先進国株式市場

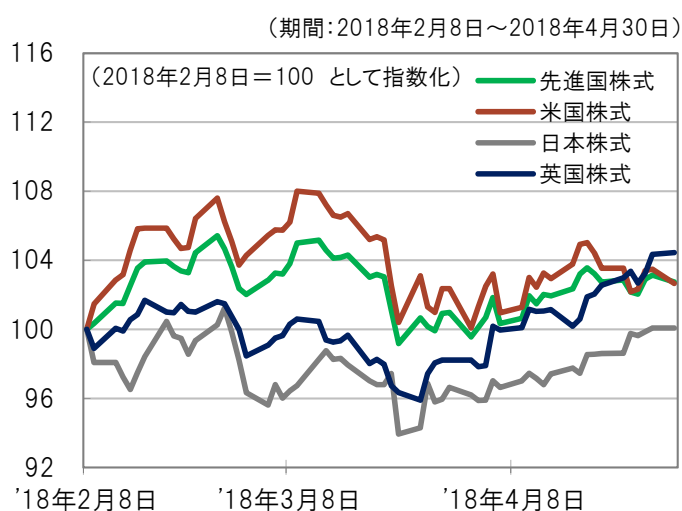
当期の先進国株式は、比較的大きな上昇、下落を繰り返す不安定な展開となりました。

2月上旬には、米国の政策金利引き上げペースが加速することへの警戒感の高まりなどから、米国株式を中心に世界的に株価は下落しました。その後一旦持ち直したものの、3月中旬から下旬にかけては、主に米国・中国間の貿易摩擦問題が世界景気に及ぼす影響が懸念されたことや、トランプ米大統領が一部の企業を名指して非難したことなどが嫌気されて株価は下押しする局面がありました。

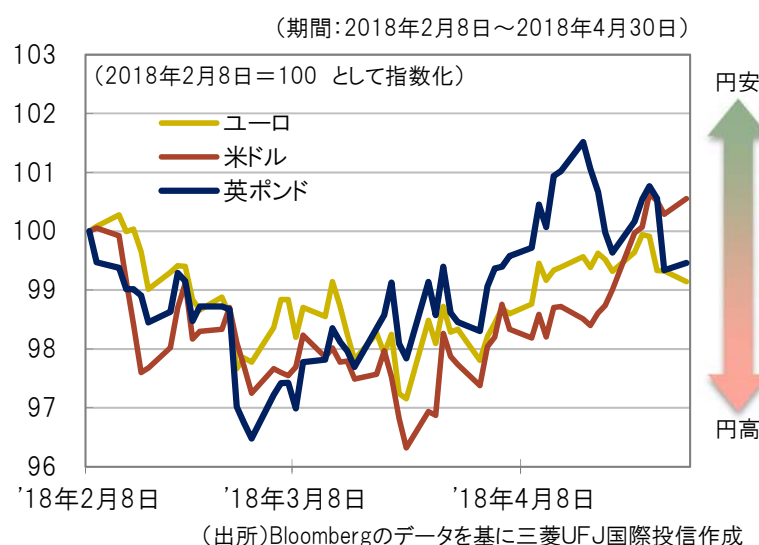
■為替市場

当期の為替市場では、3月下旬、米ドルやユーロなどの主要通貨が円に対して下落しました。

主要株価指数の推移(現地通貨ベース)



主要通貨の推移(対円)



【運用状況】

当ファンドは、「グローバル株式インカム マザーファンド」を通じて、世界主要先進国の株式のなかから割安で好配当が期待でき、信用力が高いと判断される銘柄に実質的な投資を行ってまいりました。

当期間中は計5銘柄の入れ替えを実施しました。株価の割安度の判断などに基づき、ライオンデルバセル・インダストリーズ(米国・素材※)とコーニンクレッカDSM (オランダ・素材※)を全部売却した一方、イーストマン・ケミカル(米国・素材※)、ニューウェル・ブランズ(米国・一般消費財・サービス※)、セントリカ(英国・公益事業※)を新たに組み入れました。イーストマン・ケミカルは1994年にイーストマン・コダック社から分離・独立した化学品メーカーで、汎用品分野からの脱却を主とする構造改革の効果が顕在化することが期待できると考えています。

ニューウェル・ブランズはキッチン用品、筆記具、ベビーカー、アウトドア用品などの分野で有名ブランド製品を提供する会社で、事業再編の取り組みなどによる収益性改善余地に注目しています。

セントリカは英国を中心に電力・ガスを供給する会社です。企業統治への不安感などを背景に株価が下落した局面をとらえ、既存または潜在的な株主からの圧力などにより経営体制が改善され市場で再評価される可能性が高いとみて組み入れました。

(2018年4月27日現在)

※業種はGICS(世界産業分類基準)によるものです。GICSについては、後述の「GICS(世界産業分類基準)について」をご参照ください。

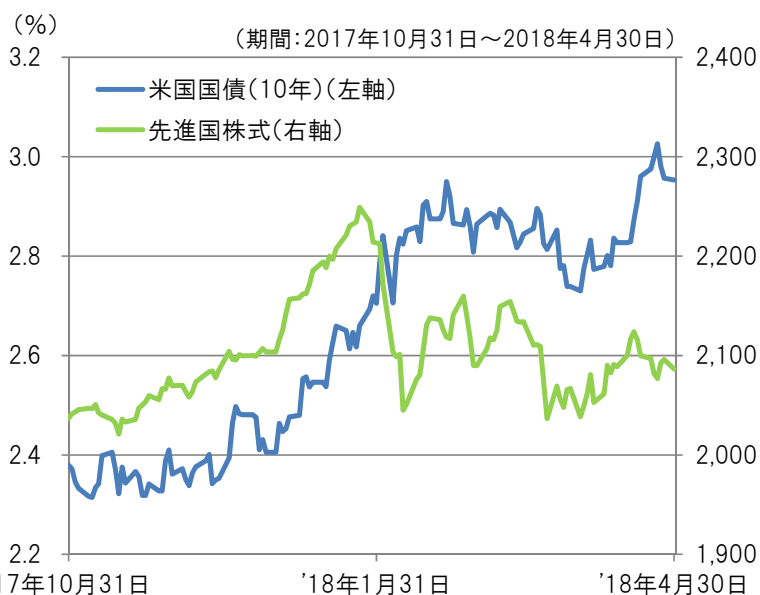
■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替、税金・手数料等を考慮していません。■上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。■計測期間が異なる場合は結果も異なることにご注意ください。■上記は過去の各市場の推移をお伝えするものであり、当ファンドのベンチマークではありません。

先進国好配当株式ファンド (3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

先進国株式の動向 ～株価の変動幅は大きいものの、良好な業績予想が下支えする見込み～

当期前半において先進国株式市場で嫌気された材料のひとつに、米国の金融政策への不安感の拡がりがあります。米国は、景気回復への確信度合いが高まりをみせるなか、政策金利も徐々に引き上げられる局面にあります。今年に入り、利上げのスピードが加速すると見通しが拡がり、米国10年国債利回りが急上昇しました。株式市場は1月中旬ごろまでは企業業績拡大への期待から上昇傾向にあったものの、米国国債利回りが2.8%を上回り、金利水準の急上昇への不安感が株式市場にも波及する結果となりました(左下図)。その後、4月中旬までは、米国国債利回りは横ばいで推移し、その後3%近辺まで上昇しましたが、これは2019年に向けての政策金利引き上げを織り込んだ水準に至ったためと思われる、金利水準の更なる上昇は考えにくいものと思われます。金利水準上昇の一服後には、貿易摩擦などの懸念材料が台頭したため、株価の停滞を余儀なくされました。一方、堅調な世界景気などを背景に先進国株式の業績見通しは良好とみられます(右下図)。政治面など先行き不透明要因はあるものの、やや長めにみれば好配当が期待される先進国株式について、業績の伸長への期待も併せた魅力は大きいものと考えます。(2018年4月27日現在)

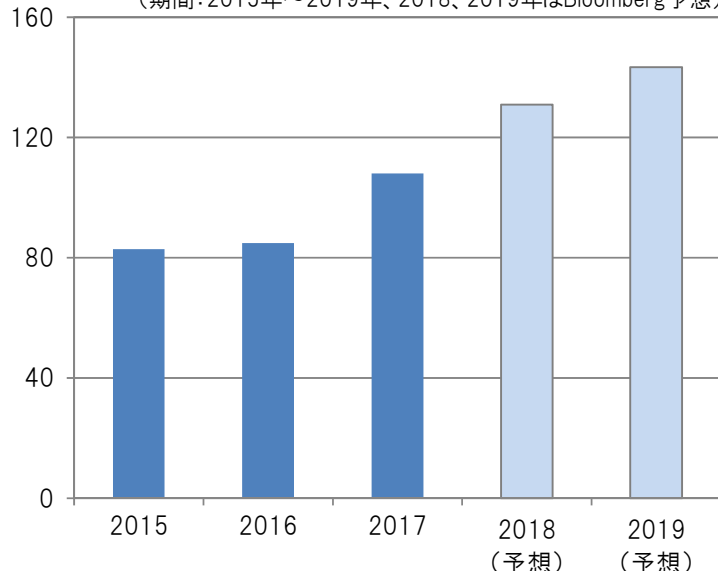
米国国債(10年)利回りと先進国株式の推移



上記は米ドル建てのデータを使用しています。
(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

先進国株式の業績見通しは上向き

MSCI ワールド インデックス(米ドル建て)の一株当たり利益
(期間: 2015年～2019年、2018、2019年はBloomberg予想)



(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

今後の市場見通しと運用方針について

【市場見通し】

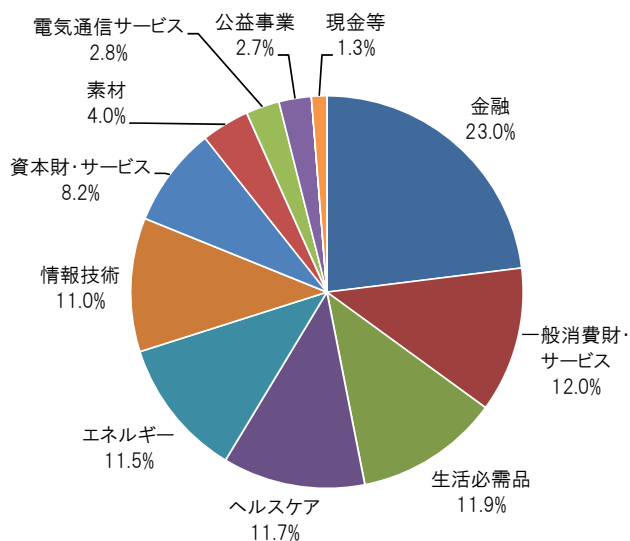
世界的な景気拡大が先進国株式を下支えすると想定しています。しかしながら、当期中にみられた様な「不確実性」を嫌気する局面が再燃することは否定できません。今年に入ってから世界の株価を下押しした要素に、トランプ米大統領による貿易摩擦をいとわない関税措置の表明や特定の企業への非難などが挙げられます。同氏のこうした姿勢は、本年11月の米国議会選挙に向けての「演出」ととどまり実態経済に影響が及ばないとしても、折に触れて株式市場で嫌気される可能性があります。ただし、業績見通しが良好な企業の株価については、株式市場を覆う不透明感が払拭された後の上昇余地が大きくなることが期待されます。

【運用方針】

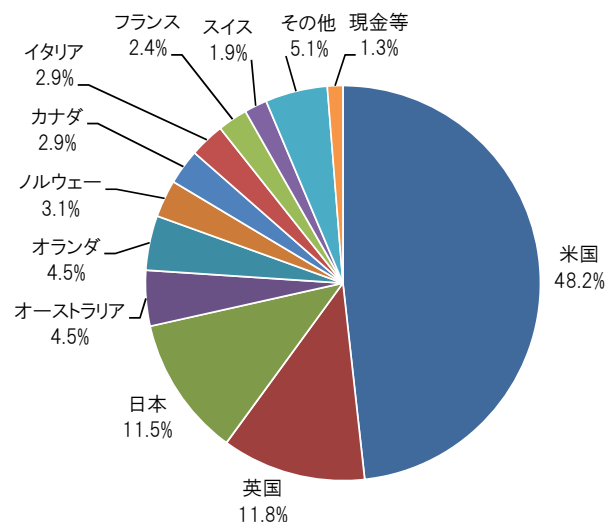
今後も当ファンドでは、株価の相対的な割安度と配当利回りに着目し、併せて財務状況が堅固と考えられる企業への投資を行います。当期にも実施しました様に、より割安と判断される銘柄への入れ替え等を随時行っていく方針です。先行き不透明感が拡がる市場においては、割安銘柄が直ちに見直されて株価が上昇するとは言い難いものの、中長期的な値上がり益の獲得と配当収益の確保を目指す上で有効な戦略となると考えています。

- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
- 運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

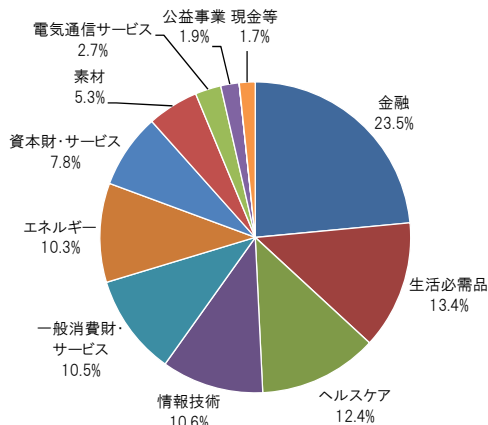
業種別比率(マザーファンド)



国・地域別比率(マザーファンド)



(ご参考)2018年1月末の業種別比率(マザーファンド)



(ご参考)主要な指数とファンドの利回り(マザーファンド)

	配当利回り
ファンド(マザーファンド)	3.7%
	配当利回り
先進国好配当株式	3.8%
先進国株式	2.4%
日本株式	1.9%
先進国債券	1.6%
国内債券	0.06%

※「国・地域別比率」「業種別比率」はマザーファンドの対純資産比率です。

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成
 ・マザーファンドの配当利回りは、過去1年間の実績配当金と当頁の基準日の価額を基に算出した年率換算配当利回りを用いて、委託会社が算出。また税金・信託報酬等は考慮していません。
 ・「先進国債券」は利回り、「国内債券」は日本10年国債利回りです。上記は指数を使用しております。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

組入上位10銘柄(マザーファンド)

(組入銘柄数: 61)

	銘柄	国・地域	通貨	業種	比率
1	マイクロソフト	米国	米ドル	情報技術	5.0%
2	ジェー・ビー・モルガン・チェース・アンド・カンパニー	米国	米ドル	金融	3.1%
3	バンク・オブ・アメリカ	米国	米ドル	金融	3.1%
4	ウェルズ・ファーゴ	米国	米ドル	金融	2.8%
5	BP	英国	英ポンド	エネルギー	2.4%
6	ジョンソン&ジョンソン	米国	米ドル	ヘルスケア	2.4%
7	メルク	米国	米ドル	ヘルスケア	2.3%
8	ラスベガス・サンズ	米国	米ドル	一般消費財・サービス	2.2%
9	リオ・ティント	オーストラリア	豪ドル	素材	2.1%
10	オリックス	日本	円	金融	2.1%

※上記は表示桁数未滿で四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※上記の各比率はマザーファンドの対純資産比率です。※業種はGICS(世界産業分類基準)によるものです。

各ファンドの マザーファンド組入比率 (2018年4月27日現在)	(3ヵ月決算型)	(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり	GICS(世界産業分類基準)について Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。 GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。
	99.5%	99.1%	

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

先進国好配当株式ファンド (3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

世界主要先進国の株式を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざします。

■ファンドの特色

特色1 世界主要先進国の株式を主要投資対象とし、割安で好配当が期待される株式に投資を行います。

・株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。

※当ファンドでは、MSCI ワールド インデックス(米国のMSCIが算出・公表している、日本を含む主要先進国の株式を対象とした株価指数)の構成国を「世界主要先進国」としています。

※好配当銘柄とは、予想配当利回りおよび財務の健全性が相対的に高いと委託会社が判断した銘柄をいいます。

※ポートフォリオのリスク分散上、委託会社が必要と認めた場合には、好配当銘柄以外についても組入れる場合があります。

特色2 信用力が高いと考えられる企業へ投資することで、ファンドの安全性を高め、安定的な収益の獲得をめざします。

・原則として、取得時においてS&PもしくはMoody'sによる投資適格の長期発行体格付けを有する企業に投資を行います。

※格付けを有しない企業にも投資を行う場合があります。

・一般的に、信用力の高い企業は良好な財務体質を有していると考えられます。

※あくまでも一般的な傾向であり、実際は異なる場合があります。

特色3 30年超の運用実績に裏付けられた独自の割安評価手法を持つUBSアセット・マネジメント株式会社からアドバイスを受け、運用を行います。

・UBSアセット・マネジメント株式会社は、世界最大級の総合金融サービス・グループであるUBSグループの資産運用部門の日本拠点です。

特色4 <(3ヵ月決算型)>

原則として、為替ヘッジは行いません。

<(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり>

原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。

・実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。

特色5 <(3ヵ月決算型)> / <(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり>

年4回の決算時(2・5・8・11月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に収益の分配を行います。

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドのしくみ

・ファミリーファンド方式により運用を行います。

<当ファンドが主要投資対象とするマザーファンド>

グローバル株式インカム マザーファンド

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【本資料で使用している指数について】

■先進国好配当株式:MSCI ワールド高配当インデックス

MSCI ワールド高配当インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国の株式のうち配当利回りが高く財務内容や業績の良好な銘柄で構成されています。

■先進国株式:MSCI ワールド インデックス

MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国で構成されています。

■米国株式:MSCI 米国 インデックス

MSCI 米国 インデックスとは、MSCI Inc.が開発した米国の株価指数です。

■日本株式:MSCI 日本 インデックス

MSCI 日本 インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本の株価指数です。

■英国株式:MSCI 英国 インデックス

MSCI 英国 インデックスとは、MSCI Inc.が開発した英国の株価指数です。

上記指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■先進国債券:FTSE世界国債インデックス(除く日本)

FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

先進国好配当株式ファンド（3ヵ月決算型）／（3ヵ月決算型）為替ヘッジあり

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

株価変動
リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

為替変動
リスク

<(3ヵ月決算型)>

ファンドは、主に米ドル建等の有価証券に投資します(ただし、これらに限定されるものではありません。)。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なればファンドの基準価額の下落要因となります。

<(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり>

組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。その場合、為替ヘッジ効果が得られない可能性や、円と当該通貨との為替変動の影響を受ける可能性があります。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行の休業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までには販売会社が受けたものを当日の申込分とします。
換金制限	各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、各ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入の申込みの受付を中止することがあります。
スイッチング	各ファンド間でスイッチングが可能です。 販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。 スイッチングを行う場合の購入時手数料は、販売会社が定めています。また、スイッチングにより解約をする場合は、信託財産留保額が差引かれ、解約金の利益に対して税金がかかります。 くわしくは販売会社にご確認ください。
信託期間	2025年11月7日まで ■(3ヵ月決算型) : 2016年2月9日設定 ■(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり: 2017年2月21日設定
繰上償還	各ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年2・5・8・11月の7日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に分配を行います。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) / (3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.24%(税抜 3.00%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社に確認してください。)
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.25% をかけた額

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して、 年率1.35%(税抜 年率1.25%) をかけた額
------------------	--

その他の費用・ 手数料	監査法人に支払われる各ファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても各ファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。
----------------	---

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料に関するご注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス><https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社情報一覧表

商号 (*は取次販売会社)	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号	○			

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。